オーディオ実験室収載

USB-5 試聴記（１）
―試聴の準備―

インフラノイズ製 USB メモリー（USB-5）が近々発売とのことで、その試聴準備にかかっております。
USB メモリーとセットで USB-101 を使用すると、CD の再生より高音質化できることは疑う余地がありませんが、録音やミキシングによっては、ありのままを出してくれるので却って気になることもあります。即ち、録音時のノイズが目立ったり、FAL のスピーカーの位相特性が良いことからミックスダウンで位相が崩れているのが丸分かりになる恐れがあるからです。そこで、USB-5 の試聴に当たってはできるだけ、高音質の音源を用いて、市販のメモリーや自分で改造したメモリーと比較してみることにしました。
従って、高音質の音源を何にするかということになりますが、まず、BS 放送をブルーレイレコーダーで録音（画）し、それらを ABS-7777 でクロック制御したのち、Sound Blaster 経由で PC に取り込み、USB メモリーにコピーしたものを使うことにしました。なお、Sound Blaster は光ディジタル入力しかありませんから、ブルーレイレコーダーと Sound Blaster の間にオーディオテクニカの同軸／光変換器を挿入します。このようにして、最近の BS 番組からいくつか取り込みました。
次に、ありきたりの CD では面白くありませんから、市販のブルーレイディスク（BD）と DVD を購入し、同様にブルーレイレコーダーで再生して Sound Blaster 経由で PC に取り込みました。
BD はオーディオ誌でも評判の小澤／ベルリンフィルのチャイコフスキーの 6 番です。また、カラヤン・メモリアル・コンサートシリーズで、おなじ曲をヨーロッパ各地でも演奏した DVD も購入しました。BD はベルリンフィルの本拠地の録音で NHK 盤、DVD はウィーン楽友会館の録音で GENEON 盤です。さらに、小澤／サイトウキネンの幻想の NHK 盤 DVD も同様の処理を行いました。
USB メモリーからの再生に先立ち、これらの盤のブルーレイレコーダーで再生した印象を述べますと、BD 盤は評判にたがわず、明らかに音質が CD や DVD より飛びぬけています。弦から金管までのバランス、低弦のうねりやティンパニの一撃、細部に至るまでの緻密な表現など何をとっても DVD ましてや CD の比ではありません。ウィーン楽友会館録音の DVD は期待したのですが、ホールの響の良さの片鱗は分かるのですが、BD を聴いてしまうと如何ともしがたいところがあります。幻想の NHK 盤 DVD は NHK だけあって、DVD でもかなりの高音質で楽しめます。

次報以降で、これらを USB-5 に取り込んでから再生するとどうなるかについて報告していきます。また、しなの音蔵がアッセンブルしたフェーダー（中身は P&G 製）を借りることにしましたので、合わせてフェーダーを使った時の USB-5 からの再生や高音質ソフトの印象についても報告していきます。

以上